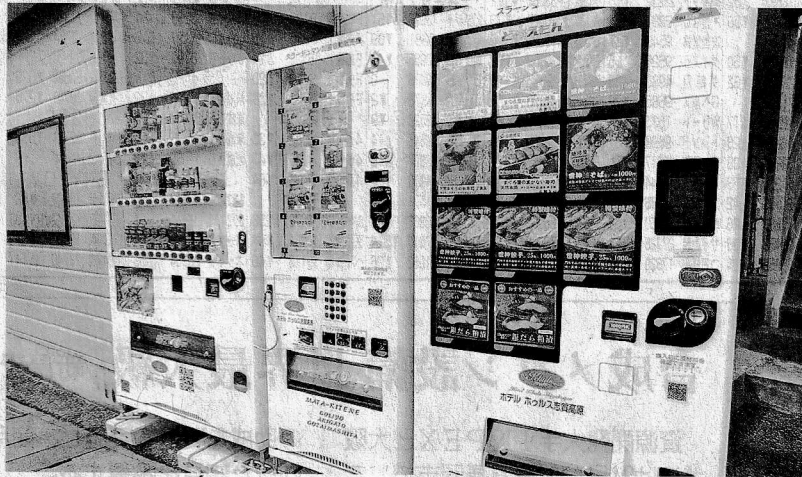


経済信州発

冷凍食品のすしやギョーザの他、信州産のブドウも並ぶ自動販売機 長野市稲葉



県産農産物や県外産食材 自販機設置

観光客と地元客 双方に照準

志賀スキーロッヂ

(山ノ内町)

ビジネス交差点

宿泊施設運営などの志賀スキーロッヂ(下高井郡山ノ内町)は、運営施設や所有不動産の敷地内に自動販売機12台を設置し、県内の農産物や県外の特産品などの販売を始めた。きっかけは、運営するホテルホウルズ志賀高原(同)が新型コロナウイルス流行で打撃を受けたこと。所有物件を生かし、観光客と

地元客の双方を視野に入れた品ぞろえで事業の柱に育てる考えだ。

8月下旬から長野市や中野市、飯山市、上高井郡高山村にある自社のアパートや長野駅東口ホウルスパーク(長野市)などの敷地内に自販機を置いている。農産物はこれまで、菅土高原(上田市)産のトウモロコシ(1本200円)や県内産のシャインマスカット(600円から)など旬の産品を扱った。

自販機設置・販売などのJag(ジェイバッグ、埼玉県川口市)が事業展開や仕入れに協力。冷凍の自販機には訪日客らをター

ゲットに、にぎりずしやラーメンなどを投入。冬場は志賀高原の近隣ホテルの宿泊者の食事にも活用してもらおう狙いだ。今後も地場産のアスパラやネマガリタケ、北海道産の総菜なども扱う予定。志賀スキーロッヂの山本孝社長は「県外客には新鮮な信州の農産物を、地元客には信州にいながら県外産の食材を提供したい」とする。

同社は1971(昭和46)年設立。スキーが盛んな冬場以外にも収益を生み出そうと、アパートや駐車場経営といった不動産賃貸業にも進出した。山本社長は、自販機事業の売り上げを伸ばし「収益をホテルの改修などにつなげたい」と話す。

冬場はホテルホウルズ志賀高原に一部の自販機を戻し、他の7台と合わせて計19台を稼働する予定。